生きていく上で欠かすことができない「食」を未来につなぐ、私たちのまちの新規就農者や農業後継者などを紹介します。

霧島の農業をミライへ

次世代農家探訪



vol. 23

窪徳 祐作さん(47)　隼人町出身、隼人町在住。
就農10年目。窪徳農園代表。
営農類型：露地野菜　経営作目：イモ類、根菜類、葉茎菜類　営農面積：5ha

窪徳農園の
インスタグラムはこちら

鹿児島空港に程近い隼人町嘉例川で、サツマイモの一種である「紅はるか」などを生産するのが、窪徳祐作さん(47)です。

飲食店を営んでいた窪徳さんが農業を始めたのは、実家が農家で、もともと農業が選択肢にあったことがきっかけでした。「飲食店の経営も10年を超え、別なことをしたいと思い、いろいろな作物を試しに作りました。その中で、紅はるかの掘り立ての素朴な味わいと、熟成させて生み出された甘みの違いに衝撃を受け、この違いを皆さんにも知ってほしいと思いました」と紅はるかを生産するようになったきっかけを振り返ります。

以来、よりおいしい紅はるかの生産を目指し、肥料や土作りなど毎年工夫を重ねてきた窪徳さん。収穫の日は「うまくできているかな」とどきどきしながら紅はるかを掘り、出来を確かめては胸をなで下ろします。「農業は毎年が挑戦。飽きることはないですね。次はどんな作物を作ろうかと、わくわくしています」

自慢の紅はるかで作る、ノンフライ芋チップス

窪徳さんは紅はるかの生産だけでなく、同級生のパティシエとコラボし、「ノンフライ芋チップス」を開発しました。紅はるかを薄くスライスし、油を一切使わず焼き上げることで、軽やかな食感に。口にすると紅はるかの自然な甘みが広がり、香ばしさも楽しめます。「今までにないパリパリ感が特徴。ぜひ食べてほしい」と窪徳さんはほほ笑みます。秋から春にかけて販売され、溝辺町の物産館などで購入できます。

